

## 無料高速道路の開通と現道周辺地域の持続的な発展に関する一考察

田井 心海

指導教員 土屋 哲

### 研究背景

全国的に高規格自動車道路の整備が進み、移動時間短縮や事故減少などの効果が生まれる一方で、並行する一般道の交通量が減少し、現道沿いの店舗へ立ち寄る機会が減ることで、地域経済や地域の魅力が衰退する懸念が生じている。地域の持続的な発展という観点から、このような問題をどのように捉え、解決への道を見出していくかが問われている。

### 研究目的

本研究の目的は、無料高速道路の開通が現道周辺地域に与える影響を明らかにし、その現状と今後の展望を整理することである。具体的には、現道沿いで小売店を営む人々を対象として、彼らがどのような影響を受け、どのように感じ、どのような対応や工夫を重ねてきたのかという「過程」に着目し、これを構造化することを試みる。

### 研究方法

高知県東部自動車道路の開通当初から影響を受けてきた夜須町の現道沿いの2店舗（飲食サービス業）を調査対象とし、各店舗代表者へ対面インタビューを実施して、開通前後の受け止め方、影響、対応策、将来の展望について自由回答形式で聞き取りを行った。そして、録音データをトランスクリプト化し、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いて分析した。

### 分析結果

分析の結果、無料高速道路開通に伴う影響と対応のプロセスは、【無料高速道路開通前/過去】、【無料高速道路開通後/現在】、【無料高速道路開通を経たこれから/未来】の3つのフェーズに整理された。また、将来に向けては、伝統や地域性を活かした発信、観光スポット化、ゆっくり滞在できる場所づくりを理想像として描いていることが明らかになった。

### 考察・結論

無料高速道路の開通は、現道周辺地域の店に短期的には客足減少などの負の影響をもたらしたが、時間の経過とともに、それぞれの店で新たな価値観や役割を見出し、環境に適応していくプロセスを経験していた。この過程は、急激な環境変化への反応として、カルチャーショック理論のU字曲線になぞらえて解釈することができる。このようにして、現道沿いで店舗を営む人々の視点から、「適応の過程」を明らかにした。